



■■■■ プロテオミクスを用いた難病の診断に向けて ■■■■

日本プロテオーム学会の皆様

平素より日本プロテオーム学会にご協力いただき誠にありがとうございます。

北里大学理学部の小寺義男先生よりプロテオミクス・質量分析技術を用いた難治性疾患の診断実現に向けたセミナー開催のご案内が届きましたので下記のとおりお知らせいたします。

日本プロテオーム学会事務局

【セミナー概要】

タイトル「ノンターゲットプロテオミクスと臨床診断：難病領域における診断の実現に向けて」

日時 2023年3月29日(水) 16:00～17:00

開催形式 オンライン

参加費 無料(要 事前参加登録)

申込サイト(参加申込締切 3月28日 17:00)

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdNX86PhtcMmx5QFebXb-jhcFuYZShYYUKdc7dkE-Hh_XS4ww/viewform

講演者

■八角高裕(京都大学医学部小児科)

「迅速診断から発症前診断へ：プロテオミクスによる先天性免疫異常症診断への期待」

■小原 收(かずさDNA研究所)

「難病の遺伝学的検査の現状と限界：プロテオミクスへの期待」

【開催にあたって】

最近のプロテオミクス・質量分析技の著しい進歩は生体試料中の 10000 種類に近いタンパク質の比較分析を可能とし、疾患のカギとなるタンパク質の検出もある程度可能になってまいりました。しかしながら、プロテオミクス・質量分析技術を用いたタンパク質を対象とした診断への応用は細菌同定以外に実際には実現できておりません。こうした中、昨年開催された第 20 回日本プロテオーム学会大会の基調講演において、かずさDNA研究所の小原收先生より DIA によるノンターゲットプロテオミクスが難病領域における診断において大きな可能性を秘めていることとお話しいただきました。

そこで、プロテオミクスの基盤技術の開発と医学・創薬への応用の両面を志向する研究者・技術者の集う本学会において、タンパク質を対象とした診断の必要性和可能性、そして具現性について学会員ならびに興味のある関連の皆様にご共有し、議論させていただきたく、本セミナーを開催させていただくことにいたしました。

セミナーでは、難治性遺伝子疾患の診断・治療を目指して研究されている京都大学医学部小児科の八角高裕先生に、難治性の遺伝子疾患におけるタンパク質を対象とした診断の必要性和発展性についてお話しいただきます。そして、遺伝性難病の遺伝学的検査を実施されているかずさDNA研究所の小原收先生に、遺伝子検査の体制等をもとに、タンパク質を対象とした診断の制度面、技術面も含めた具現性と課題についてお話しいただきます。

年度末の大変お忙しい時期と思いますが、多くの皆様にご参加いただきたく思っております。
何卒よろしくお願い申し上げます。

発起人 北里大学理学部 小寺義男

【日本プロテオーム学会通信】は、日本プロテオーム学会会員の皆様に配信しています。【アドレス変更/
配信中止】【ご質問・お問合せ】【掲載希望】は、日本プロテオーム学会事務局（info@jhupo.org）に
お願いいたします。
